

TOP INTERVIEW

時代軸思考で展望を

SCOPE理事長 広瀬宗一氏



広瀬SCOPE理事長

（前）港湾建設技術サ... (SCOPE)の広瀬理事長は、環境変化や社会の変革の時代を乗り越えていくにあたっての考え方を聞いた。

への取組や自然災害を始めとするリスク管理が浮上している。これらの課題解決、処方箋として広瀬は、①時間軸思考、②「人」、「技術」、「仕組み」のバランスのとれたシステム構築、③国土価値の創造、そして④リスクマネジメントの時代を挙げる。

平成17年に『品確法(公共工事の品質確保の促進に関する法律)』が施行になったが、これ(仕組み)の趣旨を活かして

リスクマネジメントの時代

① 時間軸思考の大切さ
これは日本人の国民性かもしれないが、我々は今置かれた状況でしか物を見ない。米に比べて今の状況を重視する傾向が特に強い。しかし物事は本来、過去か

② 「人」、「技術」、「仕組み」のバランスのとれたシステム構築
我々がこれまで取り組んできている公共調達の分野でもあった。例えば

③ 国土価値の創造
我が国の国土の価値をいかに評価し、活かしていくかが今後大事になる。この「国土の価値」というテーマについては慶応大学の和氣教授(和氣洋子・慶応大学商学部教授)が国土交通政策審議会の場で提案されておられるが、これまでの国土の価値判断では、例えば観光地や農勝地などはこれに類した価値判断

④ リスクマネジメントの時代
急速なグローバル化の進展につれ、近岸様々なリスクが拡大し、リスク自体も多様化しつつある。テロや感染症、あるいは重大な自然災害被害の発生などが挙げられる。水や食糧、エネルギー、金融商品などのリスクもある。我々はこれ

いためには、「人」と「技術」をうまく噛み合わせて行かないと十分な成果が得られない。公共調達について我々は同分野での先進国である英国に「設置(しくみ)」を学ぶ、その考え方も参考にしつつ入札制度の改善や総合評価方式の導入などを進めてきたが、英国においてかならずしも成功していないと同様に、

国内においても仕組みはできたものの、人と技術がこれにうまく付いていないのが実情だ。これは国の政策でも同様で、日本が将来にわたって何で生きていくかを考えた場合、「人」、「技術」、「仕組み」のバランスが大事になる。そのためシステム構築に取組む必要がある。

等危険地域で、これを防衛しても投資効果や技術面で無理と判断すれば、住民の居住を規制して安全な場所に誘導するなど取組むが必要になる。古い町並みや歴史的価値が判断されれば、観光地としての新たな賑わいも期待できる。価値には多様性があり、価値の見方も人や組織により異なるので一筋縄ではいかないかもしれないが、こうした国土価値を評価する仕組みの導入により、国土の在り方としての新しい方向性が見えてくるのではないかと。

このリスクを適切に把握して、その影響を最小化する手を打っていないかなければならない。その意味ではリスクマネジメント時代になっている、ということができる。これは公共調達の分野でも同様で、公共事業もリスクマネジメントの視点で捉えていくことが大切になる。公共施設は必ず造られる。発注の自由度については言えば柔軟性に富んでいる部分がある。各研究機関それぞれ情報発信することにより、人材育成に貢献できると考えている。2月に我々がまとめたリスクマネジメント用語集を発行するという考えが求められている。欧米の建設には既にそうした複合マネジメントとされており、我が国企業も対応を深める必要がある。

つては国の行政機関や企業が業務の一環として人材育成にも貢献してきたが、今は行政も職員が減少し、様々な規制も加わって日々の遂行で手一杯なのが実情だ。また企業も価格競争に翻弄され、人を育てる余裕や環境が益々少なくなっている。ただ我々のような組織は、発注の自由度について言えば柔軟性に富んでいる部分がある。各研究機関それぞれ情報発信することにより、人材育成に貢献できると考えている。2月に我々がまとめたリスクマネジメント用語集を発行するという考えが求められている。欧米の建設には既にそうした複合マネジメントとされており、我が国企業も対応を深める必要がある。こうした研究成果を広く世に提供することも人材育成につながるものと考えている。(広瀬理事長の談話を本紙がまとめました)